

一般 菊川茶の存続をかけて

横山 隆一（日本共産党）



本年、8月農林水産省が、本年の一番茶生産量統計を発表した。本県の荒茶生産量は9,060tで大幅な減産に転じ全国一位を維持したものの摘採面積の縮小は止まっていない。まさに「危機脱出には待ったなし!!」であり市長の決断を求める。

◎ 菊川茶業の存続には、茶の品質の確保と中心茶農家の絞込みとグループ化が必要だが。

△ 茶商や各生産者の取引先からの需要があるお茶を供給できる生産体制にすることが必要と考えている。

◎ 儲かる茶業となるためには、安定した茶価が重要となる。茶業振興センターの奮起が強く望まれる。一方、増収増益につなげている茶商もある。儲かる農業につなぐ協議は。

△ 本年度、有機栽培や輸出に向けた協議会の立ち上げを進めている。

“茶葉”で飲む!



◎ 掛川市「茶業版フェアトレード制度」を参考に、茶商の求める生産委託を充実させるなどの「菊川版フェアトレード制度」を考える必要があると思うが。

△ 掛川市の取組は試験導入とのことで、今後も情報収集をしている。また、取引数量や価格を見える化できる契約栽培も選択肢の一つと考えている。

◎ 関連団体との情報交換会では、「エキスパート職員」の配置を求める声がある。市民からみた「信頼のおける職員」を育成していくための考えをお聞かす。

△ 菊川市人材育成基本方針に沿った職の能力開発・適正な人事によりレベルアップを図っていく。

一般 風水害における減災

坪井 仲治（みどり21）



減災とは、災害時において発生し得る災害の被害を最小化するための取組である。菊川市における減災に対する施策、考え方等について質問した。

◎ 避難行動要支援者等の避難支援体制の訓練・検討会の実績と今後の計画は。

△ 福祉避難所の開設訓練及び検討会を実施しており、今後の計画については、訓練による課題を整理し、菊川市福祉避難所開設・運営マニュアルを見直し、実効性を高めていく。重度身体障がい者に対する防災対策検討会の実績と今後の計画については、東遠地域自立支援協議会の重度心身障がい者に関する専門部会にて取り上げ、本年度は県内事例の研究・視察を行った。今後は、協議会において福祉避難所のあり方や避難支援について、見直し・検討を行う予定となっている。避難行動要支援者登録をされた方で、出水時に避難誘導が必要な地域にお住まいの方の確実な避難誘導を実施するため

の施策は、浸水想定区域に住む高齢者等について、個々の状況に合った避難誘導が重要となるため、本年度からケアマネジャーの協力を得て、個別避難計画の策定を進めている。

◎ 発災後の復旧工事の設計業務等について静岡県建築士事務所協会と協定を締結した目的は。

△ 公共施設が被災した際、直後の混乱時の時間的な制約がある中、協定を締結したことにより、協会を通じて対応が可能な設計事務所へ早期に業務を依頼することが可能となり、速やかな応急措置や補強、復旧工事に着手することが期待できる。

